

# ふるさとわがまちづくり

## 七重自治区(寺下)

### ◆「寺下町」の歴史

現在の寺下町は、江戸時代から明治22年まで寺谷下村と称してきました。

明治22年に隣接の小呂村、上鷹見村、下鷹見村、手呂村、成合村、千鳥村と合併して七重村の成立となり、七重村大字寺谷下と改称しました。

明治39年に全国的な市町村合併で、石野村大字寺谷下となり49年間にわたって、この地名を継承しました。

昭和30年に猿投町と合併になり、西加茂郡猿投町大字寺谷下と変わりました。

昭和42年4月1日に豊田市への合併で豊田市大字寺谷下になり、昭和45年に地名変更で豊田市寺下町となり、現在に至っています。

### ◆寺谷下教会の由来

寺下町の歴史の中で、最古



の記録として豊田市史第1巻にみるように、天正19年(西暦1591年)の岡崎市佐々木町の東本願寺三河三ヶ寺の1つ上宮寺所蔵の古文書(上宮寺末寺法制定連判、上宮寺末寺帳)に記載をみています。

この文書には「てらやき、空了」とあり、寺下教会の前身である寺谷下庵と住職空了という僧の存在が証明されています。



内陣



寺谷下教会

寺谷下には「てらやしき」の名が南方約400<sup>里</sup>にあるので文明時代の空了はそのこととの関係があるであろう。この道場は東本願寺系の寺で、古くから寺谷下道場と呼ばれ、今は清通寺(上高町)の手次寺となっています。当時毎年12月には報恩講が行われ、清通寺住職の説教と粗飯が出され、地方からも多くの人達が集まっていた道場は、再度の火災で記録類は焼失してしまいました。

昭和44年4月5日に現在の建物となりました。

今は町内の人達だけで、11月か12月に報恩講が行われ、2代目阿部重作、3代目阿部秀一、現在は4代目阿部一行さんに引き継がれています。

#### 寺下自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：31世帯  
：30世帯(昭和52年)  
組数：4組  
面積：0.841km<sup>2</sup>  
自治区たより：「ふれあい七重」年4回  
回覧：月2回  
防犯灯設置箇所：15箇所  
小学校：上鷹見小学校区  
自治区会館：寺下町公民館